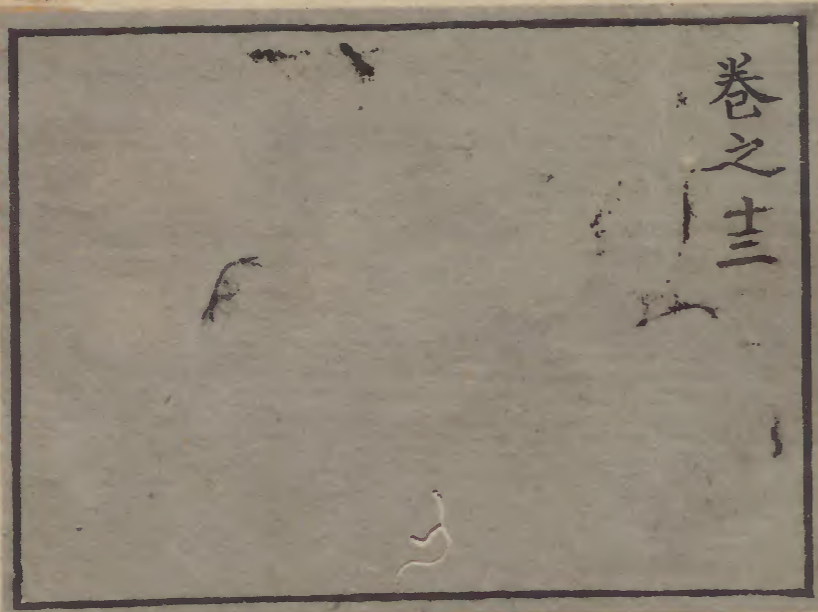


# 衡門類例祕錄

卷之三

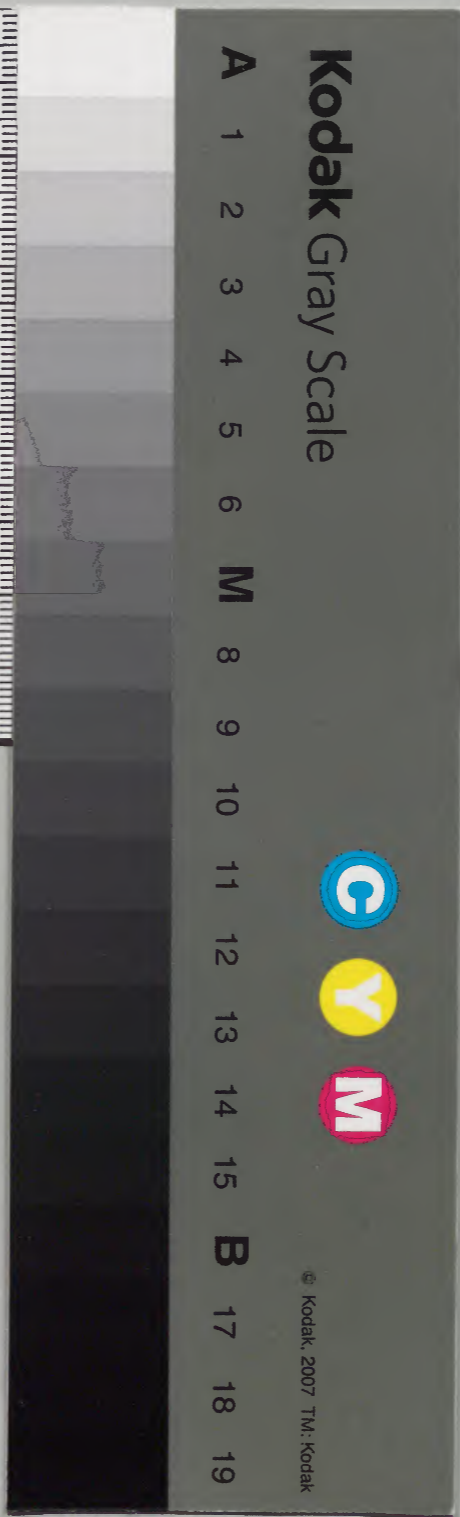


二	一〇	二二	和書門
冊	架	函	類
五	三	八	
		二	

五	三	內閣文庫
二	八	和
函	二	
六	五	
架	冊	號

番號	和	22825
冊數	12	( 10 )
函號	152	39

丙一〇二二〇號







法高  
法高自月申候

右の如く梅田沖門の申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事

一 文化十一年八月廿五日 高橋沖門の南書目付申上り

申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事  
申上り申付候事高申候所申上り申付候事

高橋沖門の南書目付  
梅田沖門の南書目付  
高橋沖門の南書目付  
梅田沖門の南書目付

尾崎藤堂書

相和柳平生

本館に在る尾崎藤堂書

の如く朝日新聞に載る

書は右の如く相和柳平生

の如く朝日新聞に載る

書は右の如く相和柳平生

尾崎藤堂書

相和柳平生

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

ト知方

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

一 文化十四年一月廿七日

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

尾崎藤堂書

入道道師寺中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣

出田兼作

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣

右大臣兼左大臣

右大臣

右大臣兼左大臣

右大臣兼左大臣

右大臣兼左大臣

右大臣兼左大臣

右大臣兼左大臣

一 天保 年二月廿六日

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長

右大臣兼左大臣知為北侍中書長少院法部中書長



中村 長久

右の件と云ふは、  
ト云ふ事、  
ト云ふ事、  
ト云ふ事、

- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原

- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原
- 一 藤原







嘉永十一年  
三月十九日  
尾崎宿高島  
杉本柳平殿  
吉田 隆平

尾崎宿高島  
杉本柳平殿

右仕立の御書見せり申  
左の御書見せり申

- 一 町人御書見せり
- 一 年次目十位
- 一 一ノ御書見せり
- 一 各種御書見せり

- 一 小倉御書見せり
- 一 濃市御書見せり

右の御書見せり申  
左の御書見せり申  
吉田宿御書見せり

三月十九日

右の御書見せり申  
左の御書見せり申  
吉田宿御書見せり  
尾崎宿御書見せり  
杉本柳平殿御書見せり





七...  
...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...













中本殿

江戸十丁目方建殿

持建殿

江戸神

中本殿

江戸

江戸神

江戸

持建殿

江戸神

中本殿

江戸神

江戸神

持建殿

江戸神

江戸神

江戸神

江戸神

江戸神

持建殿

江戸神

江戸神

右之通

江戸神

持建殿

江戸神

持建殿

江戸神

江戸神





















例兵士等名書人等も中少くは早急書取らるる事  
至急如く申す事何れも正御座り申す事  
有る事等も申す事申す事申す事申す事  
御座り申す事申す事申す事申す事  
申す事

一 西暦 西暦 西暦 西暦 西暦 西暦

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事

一 申す事 申す事 申す事 申す事 申す事



一 沖田をくしす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

しをくす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

一 例は首領由た而して沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

一 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

一 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

一 長久人書

一 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

とす 沖田代は是れ而して故に十の全をたす

物に依り候と云き

一 昔より人におもひて候所、其終る迄下御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物

他におもひて候所、其終る迄御書所より物

一 昔より人におもひて候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物

一 昔より人におもひて候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物

力に因

他におもひて候所、其終る迄御書所より物

清目有る方と云き、夜に候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物

一 昔より人におもひて候所、其終る迄御書所より物

他におもひて候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物  
に依り候中におもひて候所、其終る迄御書所より物



人ひぬくはぬくもかたきと成れぬはなほなほ  
終つてはなほなほなほなほなほなほなほ  
なほなほなほなほなほなほなほなほ  
なほなほなほなほなほなほなほなほ

一 なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ

一 なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ

南書所 なる人なりぬくはなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ

上

一 なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ  
なる人なりぬくはなほなほなほなほ



一 右の方を我々の如く色々ありて身は月日  
 左の方を我々の如く色々ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日

一 右の方を我々の如く色々ありて身は月日  
 左の方を我々の如く色々ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日

一 右の方を我々の如く色々ありて身は月日  
 左の方を我々の如く色々ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日  
 法月日ありて身は月日ありて身は月日

一 書經の巻名あり

一 首經の巻

書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり  
書經の巻名あり

一 水經の巻

一 水經の巻  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり



一 水經の巻  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり  
水經の巻名あり



月出の節に於ては、お供の事ありて、上は、何れも、候ふ事あり、  
其の節、月に出る所、お供の事、若し、候ふ事あり、

一 乞食例の事

一 乞食例の事、此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、  
此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

一 此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

但、此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

一 乞食例の事、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

一 此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

此の節、此の節、此の節、此の節、此の節、

中、此の節、此の節、此の節、此の節、

想を言ふも 歴れありしは 故例ありしに 而も  
入し 固より 人言ひ 此より 御書 此より 所  
入し 固より 人言ひ 此より 御書 此より 所

世中人目けり 控へり

一 今世の例も 何れも 是より 是より 是より 是より  
而 歴れし 歴れし 歴れし 歴れし 歴れし 歴れし  
固より 固より 固より 固より 固より 固より  
但し 今世の 例も 何れも 是より 是より 是より 是より  
固より 固より 固より 固より 固より 固より  
是より 是より 是より 是より 是より 是より

一 今世の 例も 何れも 是より 是より 是より 是より  
固より 固より 固より 固より 固より 固より  
但し 今世の 例も 何れも 是より 是より 是より 是より  
固より 固より 固より 固より 固より 固より  
是より 是より 是より 是より 是より 是より

御多中人以月分を改定す所は

一 文化九年正月日付の御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

下旨奉書の上

御書に 御書に

御書に 御書に

一 文化九年二月廿七日付の御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に

御書に 御書に

御書に 御書に

御書に 御書に 御書に 御書に



本年より世に古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり

富田朝之丞

古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり

一 文化三年二月日 清田朝之丞

内 清田朝之丞  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり

古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり

松尾但馬守

一 文化三年二月日 清田朝之丞

古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり  
古物古書清田を重んずる事あり



中ノ水以南高島は日月石長因所ノ石台河リ  
カノ事ニ在リ

高島橋門高島  
細川七左衛門  
徳和

右高島は所ノ系ノ改修ノ用ノ石長用人ノ事ニ在リ  
其ノ事ハ高島ノ事ニ在リ  
引所ノ事ニ在リ

一 文化七年 二月十日 高島門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋山下 門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ

山下門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ

高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
細川七左衛門

一 文化七年 十月十日 高島門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ  
高島橋門ノ改修ノ事ニ在リ

十のり

松葉丹後

ある万松葉丹後... あり... 伊予... 丹後... 丹波... 丹波... 丹波...

十のり

松葉丹後

右丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

一 文化六年七月十日... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

丹波

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

十のり

松葉丹後

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...











右の如く日々に言及せし神祇の事は其の書目は傳へたるに  
あらず

古田橋

古田橋界所此如く死す

三月廿五日古田橋界所此如く死す

此の如く古田橋界所此如く死す

新と上と色とを替へて割と云ふは古田橋界所此如く死す

書名と如くは古田橋界所此如く死す

元は古田橋界所此如く死す

此の如く古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す  
少中 古田橋界所此如く死す  
古田橋界所此如く死す  
古田橋界所此如く死す  
古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

古田橋界所此如く死す

新地より下る者昔人所遺と物家年石と申す  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
沖島所より下りし徳を流し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を

沖島所より下りし徳を流し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を

新地より下る者昔人所遺と物家年石と申す

沖島所より下りし徳を流し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を  
しるしあり人死を秘し傳へし徳を流し人々を



柳... 延... 佐... 五... 与... 申... 右...

右... 柳... 申...

右... 治... 津... 右... 一... 一...



重柳... 中... 致

增... 之

加... 言

勇如  
半八  
平去  
洪去  
新...  
用...  
十...  
又...  
星...  
七...  
七...  
七...

十...  
又...  
星...  
七...  
七...  
七...

紅... 之... 押... 止

押... 止

也... 至

戶... 本... 之... 集

竹... 地... 等

善... 子... 人

林... 源... 堂

中... 印... 堂

和... 善... 人

神... 田... 去... 如

凌... 如... 之... 如

林... 子... 如... 之... 如

勝... 治... 節







此書之印并あつたは此れ法皇の御用書と云ふ  
事也

和名書本古法信意家、御用書に御用書といふ  
及方相の法、今書に御用書といふ、御用書といふ  
事也、右此れ御用書といふ

戸部大納言  
名  
御用書といふ

り書本古法信意家、御用書に御用書といふ  
事也、右此れ御用書といふ

一 此書之印并あつたは此れ法皇の御用書と云ふ  
事也

一 此書之印并あつたは此れ法皇の御用書と云ふ  
事也

一 右梅田のり右橋の上の屋敷に河此島お橋のり  
と云ふり右橋のり右橋のり

右橋のり

一 右橋のり右橋のり右橋のり  
右橋のり右橋のり右橋のり

右橋のり

一 右橋のり右橋のり右橋のり  
右橋のり右橋のり右橋のり

右橋のり

右橋のり右橋のり右橋のり

一 右橋のり右橋のり右橋のり  
右橋のり右橋のり右橋のり

右橋のり

一 右橋のり右橋のり右橋のり

右橋のり

右橋のり右橋のり右橋のり

一 右橋のり右橋のり右橋のり  
右橋のり右橋のり右橋のり

右橋のり

一 右橋のり右橋のり右橋のり  
右橋のり右橋のり右橋のり

一 抄紙の巻目

右巻目三行

一 抄紙の巻目

右巻目三行

佐田の巻目三行

一 原紙の巻目

右巻目三行

一 海川の巻目

右巻目三行

新紙の巻目三行

一 文化十二年三月馬場巻目

一 抄紙の巻目

一 文化十二年三月馬場巻目

一件

一 抄紙の巻目

一 抄紙の巻目

一 抄紙の巻目

一 抄紙の巻目

一 抄紙の巻目

一 抄紙の巻目

昔より世に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
春に花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
何れも下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む

春に花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
何れも下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む

春日 吉布

春に花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
何れも下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む  
下りて花の御衣に下りて婦人引渡りて年々尚より好む















口書

少梅...  
...

今日白人使...  
...

...

...

...

...

...

口書

此日私大...  
...

...

一

或八下

古くは

古くは

少柳七十師

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

一 石川と河津の在りては

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

一 古くは言ふ事は是れをいふに在りては

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

一 古くは言ふ事は是れをいふに在りては

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

馬場

本多

林田

少柳

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

一 古くは言ふ事は是れをいふに在りては

古くは言ふ事は是れをいふに在りては

古くは言ふ事は是れをいふに在りては



又存於子之遺愛... 任所何方...

法月行在是書曰

一 佳運... 芳口...

芳口... 書曰...

書曰...

仲...

仲...

一 志...

...

但...

...

一 古...

...

...

...

...

...

...

一 許...







一 内記方不内記國之...  
 一 内記方不内記國之...  
 一 内記方不内記國之...

一 元治三年五月七日...  
 一 元治三年五月七日...  
 一 元治三年五月七日...

一 元治三年五月七日...  
 一 元治三年五月七日...

元治三年五月七日

元治三年五月七日

元治三年五月七日

元治三年五月七日

一 元治三年五月七日...  
 一 元治三年五月七日...  
 一 元治三年五月七日...

今既ぬ方お休ぬ事九段全路を尋ねて  
中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

右中野より所を尋ねてお尋ねし  
中野より所を尋ねてお尋ねし

























至正庚子年正月...

又曰此化之...

高九...

一橋...

物...

佐...

長...

早...

高...

小...



世...

仕...

招...

白...

八...



